

## 報告文献別一覽表

報告文献別一覧表（医療機器 平成19年4月1日～平成19年9月30日）

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	HEV	J Viral Hepat 2007; 14: 310-317	HEV流行地域であるインドLucknowの屠殺場からブタ、ヤギ、ニワトリ、ヒツジおよび水牛の血液検体入手し、抗HEV IgGの有無を調べた。ブタ200検体の大部分、ヤギ86検体の全てが抗HEV反応性を示し、阻害試験でHEV特異性が確定された。その他の動物種では抗HEV反応性はみられなかったが、特異性は確定できなかった。ブタ210頭、子豚94頭およびヒツジ37頭の糞検体中のHEV-RNAをRT-PCRにより調べたが、1例のブタ検体で検出されただけであった。その遺伝子配列はヒトHEVと76-79%のヌクレオチド相同性しかなかった。
2	HEV	Vet Microbiol 2007 Jul 7	2006年末に中国上海郊外の養豚場で育ったブタで初めてジェノタイプ3のHEVが同定された。上海の養豚場のブタのHEV感染率を正確に調べるため、上海郊外10地区の37の養豚場からブタの糞検体426例を集め、RT-PCRによりHEV RNAの有無を調べた。その結果、111例がHEV陽性であり、地区別のHEV感染率は0-41.7%であった。32検体をシーケンスしたところ、22例はジェノタイプ3に、10例はジェノタイプ4に属していた。
3	HEV	肝臓 2006; 47(Suppl3): A538	2001年1月から2006年8月までに札幌市内の病院で治療を受けた急性E型肝炎14例と非E型急性肝炎20例を対象に、感染源および感染経路について調査を行った。その結果、E型急性肝炎患者14例中12例が発症の25～42日前に豚レバーまたは豚ホルモンを摂取していることが明らかになった。非E型の急性肝炎患者では食事歴が明らかになった18例中1例のみが豚ホルモンを摂取していた。E型肝炎発症の有効な危険因子として豚レバー・豚ホルモンの摂取が密接に関連することが示された。
4	HEV	J Viral Hepat 2007; 14: 140-146	オランダにおけるHEVの固有の伝播を調べるため、血液ドナー50名由来の血清および急性肝炎患者由来の血清1027例をHEV特異的IgGおよびIgMについてELISAでスクリーニングし、イムノブロットで確定した。HEV感染は血液ドナーで0%、患者では4.4%であった。PCRで確定したHEV患者の89%でオランダブタのウイルス株（遺伝子型3）と関連した配列を検出した。原因不明の急性肝炎患者ではHEV検査も行うことを推奨する。
5	HEV	日本内科学会雑誌 2006; 95: 2295-2297	北海道北見市で、2003年9月から2005年3月の間に5例のE型肝炎例を経験した。発症例は45～65歳で、いずれも海外渡航歴はなかった。遺伝子型は全例4型であった。全例が発症2～7週前に豚レバーないし豚ホルモンを摂取していた。感染予防のために、十分な加熱調理と調理器具や手指などの消毒・洗浄が重要である。
6	インフルエンザ	Biochem Biophys Res Commun 2007; 356: 91-96	2005-2006年に中国の8つの省でブタインフルエンザウイルスのサーベイランスを行った。その結果、初めて、Guangdong省の農場のブタからヒト様インフルエンザH1N1ウイルスを分離し、遺伝子分析を行った。8つの遺伝子切片は全てヒト起源であった。系統遺伝学的分析により最近のヒトH1N1インフルエンザウイルスの子孫であることが示唆された。更に、4つのブタH3N2ウイルスが分離され、Guangdong省の3株は最近の、Heilongjiang省の1株は初期のヒトウイルスに由来していることが明らかとなった。
7	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2006; 12: 787-794	米国Michiganでウイルス性肺炎で死亡したブタの肺組織から得られた分離株およびIndianaで咳、呼吸困難、嗜眠を呈したブタの鼻汁から得られた分離株は新規のH3N1型ブタインフルエンザウイルス(SIV)であった。系統遺伝学的分析の結果、H3N2七面鳥由来のヘマグルチニン遺伝子、ヒトH1N1分離株由来のノイラミニダーゼ遺伝子、およびSIV由来の残りの遺伝子を獲得していることが明らかとなった。
8	インフルエンザ	ProMED-mail20070108.0077	アイオワ州東部でブタインフルエンザ陽性患者1例が確定された。州当局は警戒の必要はないとしている。患者は入院せずに回復した。ヒトからヒトへの感染の証拠はなかった。このウイルスはヒトに感染しにくく、ヒトはかなり抵抗性を持っている。
9	鳥インフルエンザ	Arch Virol 2006; 151: 1267-1279	2004年初頭、日本で発生した高病原性トリインフルエンザで死亡したニワトリから単離されたA/chicken/Yamaguchi/7/04(H5N1)ウイルスを、ニワトリ、ウズラ、セキセイインコ、コガモ、マウス、ミニブタに経鼻で接種し、実験的に感染させることにより病原性を評価した。このウイルスは調べられた全てのトリで高病原性を示し、ニワトリは接種後4日以内に6例全てで死亡し、ウイルスは呼吸器、肝臓、腎臓、大腸、脳から検出されたが、血液からは検出されなかった。マウスは感染に感受性はあるが、致死率は低かった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
10	鳥インフルエンザ	OIE <a href="http://www.oie.int/wahid-prod/public.php?page=single_report&amp;pop=1&amp;reportid=5778">http://www.oie.int/wahid-prod/public.php?page=single_report&amp;pop=1&amp;reportid=5778</a>	米国における低病原性トリインフルエンザウイルス(血清型H5N1):アウトブレイクの開始日-2007年7月7日、確定日-2007年7月20日、報告日-2007年7月23日、前回の発生-2007年4月3日、新たなアウトブレイク-Virginia, Shenandoah, Shenandoah Countyの農場:トリにおいて疑い例54000例、処分54000例、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
11	鳥インフルエンザ	WHO/CSR 2007年6月4日	中国におけるトリインフルエンザの状況(update3):中国衛生省は同国で16例目のH5N1トリインフルエンザウイルスによる死亡例を報告した。症例はFujian省に駐留していた19才の兵士で、6月3日に死亡した。中国での確定例は25例で、うち16例が死亡している。
12	鳥インフルエンザ	国立感染症研究所 感染症情報センター 2007年3月30日	2007年3月29日付け、WHO更新情報によると、中国保健省はH5N1鳥インフルエンザウイルスによるヒト感染の新たな死亡例を報告した。安徽省に在住の16歳男性が3月17日に発熱と肺炎様の症状を呈し、20日に入院し、27日に死亡した。男性が病鳥と接触したことを示唆する所見はなく、曝露源を調査中である。密接接触者は医学的監視下に置かれ、全員健康である。中国でこれまで確認された24例のうち、15例が死亡している。
13	鳥インフルエンザ	国立感染症研究所 感染症情報センター 2007年6月5日	2007年6月4日付け、WHO更新情報によると、中国保健省はWHOに対し、H5N1鳥インフルエンザによる同国16人目の死亡を報告した。福建省の19歳男性が6月3日に死亡した。中国でこれまで確認された25例のうち、16例が死亡している。
14	鳥インフルエンザ	遺伝 別冊 No. 20: 172-175 (2007年1月20日)	高病原性鳥インフルエンザと新型ウイルス出現の可能性に関する概説である。ブタは人と鳥両方のウイルスに感受性があり、両者の交雑ウイルスが人にとっての新型ウイルスとなる可能性がある。また、人の体内でニワトリのウイルスと人の交雑ウイルスが生まれる可能性、あるいは直接ニワトリのウイルスが人に適応したウイルスに変化する可能性がある。H5N1高病原性鳥インフルエンザウイルスはアジアからロシア、ヨーロッパへと拡大を続け、2006年10月3日現在で252名、うち死亡者数は148名である。
15	変異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2007年3月15日	近年、米国で承認されている第8因子、第9因子を含む血漿由来の血液凝固因子および免疫グロブリンやアルブミンのような他の血漿由来製品のレシピエントにおけるvCJDリスクに関する懸念が挙がっている。これに対し、米FDAはリスク評価を行った。この評価に基づいて、US Public Health Serviceは、正確なリスクは分からないが、米国で承認されている第8因子を投与されている患者へのvCJDリスクは非常に低く、その他の血漿由来製品(第9因子を含む)のvCJDリスクは同程度か更に低いとしている。本ウェブページに、FDAの評価関連資料、ガイダンスなどが掲載されている。
16	ウイルス感染	OIE <a href="http://www.oie.int/eng/info/heβδο/AIS_78.HTM#Sec15">http://www.oie.int/eng/info/heβδο/AIS_78.HTM#Sec15</a>	2006年6月末以降、中国の6つの省で、高熱、皮膚の発赤、呼吸促進を特徴とする疾患でブタが死亡した。調査の結果、古典的ブタ熱、ブタ生殖器および呼吸器症候群、ならびにブタサーコウイルスの混合感染に関連することが明らかとなった。
17	ウイルス感染	ProMED-mail20070114.0185	中国Xian農業文化局は2007年1月4日、「ブタ高熱病」は制圧されたと発表した。この疾病は人獣共通病ではなく、国の強制的ワクチン接種リストには含まれていない。影響を受けた村では13420頭中5866頭のブタが感染し、2390頭が死亡した。
18	ウイルス感染	ProMED-mail20070407.1171	米国North Carolina州Pitt郡のある農場で2006年8月から2007年3月の間に8000頭のブタが、ブタ生殖器呼吸器症候群(PRRS)で死亡した。同州ではPRRSを追跡していないため同州でのこの疾病の程度を決定することは難しいとのことである。
19	ウイルス感染	ProMED-mail20070529.1735	中国で青耳病として知られる原因不明の疾患および口蹄疫によりブタが大量に死亡しており、豚肉の価格が高騰している。2006年半ばに11例目が発見されたブタ高熱病は、豚生殖器呼吸器症候群、古典的豚コレラおよび豚サーコウイルスの混合感染が原因とされている。最近2、3年の間に、ブタ高熱病と呼ばれる同様の感染症が中国南部でも報告されている。微生物学者による詳細調査が行われる予定である。

ID	感染症(PID)	出典	概要
20	ウイルス感染	ProMED-mail20070725.2394	2007年7月25日、中国農業省は、2007年7月1日から7月22日に11省32郡で22634頭のブタが感染し、6433頭が死亡し、15728頭が処分されたと発表した。2007年1月1日から7月22日では、25省で165144頭のブタが青耳病に感染し、そのうち45546頭が死亡し、42728頭が処分された。中国のほぼ全域が高病原性PRRS(ブタ生殖器呼吸器症候群)すなわち青耳病の影響を受けた。
21	感染	ProMED-mail20070508.1479	中国南東部で謎の疫病でブタが死亡しているが、中国政府はその件に関してほとんど情報提供していないと2007年5月7日に国際機関や香港は発表した。香港のテレビ放送および新聞はGuangdong省GaoyaoとYunfuで体から血を流してよろよろしているブタを大きく報道した。同地域では80%のブタが死亡し、パニックとなった農民は病気のブタを格安で売っているとのことである。
22	狂犬病	Public Health Agency of Canada/Infectious Diseases News Brief 2007年3月9日	カナダAlberta州においてヒトの狂犬病症例が確認された。East Central Health Region出身の男性は2006年の夏にコウモリに咬まれ、狂犬病の暴露後治療を受けなかった。患者は病院に入院しており重症である。ここ5年間、Alberta州において少数のコウモリが狂犬病陽性の検査結果であった。同州で報告された狂犬病ヒト症例は1985年以来である。
23	口蹄疫	OIE Disease Information 20(20) 2007年5月17日	中国における口蹄疫-Follow-up report No.5: 開始日-2007年1月15日、アウトブレイクの確定日-2007年1月17日、報告日-2007年5月16日、前回の発生日-2006年11月、病因-口蹄疫ウイルス(血清型Asia1)、新たなアウトブレイク-Gansu, Yuzhong, Hongliugouの村(アウトブレイクの開始日2007年5月12日): ウシにおいて疑い例39例、症例10例、処分39例、ブタにおいて疑い例32例、処分32例、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
24	口蹄疫	OIE Disease Information 20(4) 2007年1月25日	中国における口蹄疫: 開始日-2007年1月15日、アウトブレイクの確定日-2007年1月17日、報告日-2007年1月19日、前回の発生日-2006年11月、病因-口蹄疫ウイルス(血清型Asia1)、新たなアウトブレイク-Gansu, Douchengの村(アウトブレイクの開始日2007年1月22日): ウシにおいて疑い例89例、症例7例、処分89例、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
25	口蹄疫	OIE Disease Information 20(5) 2007年2月1日	中国における口蹄疫-Follow-up report No.1: 開始日-2007年1月15日、アウトブレイクの確定日-2007年1月17日、報告日-2007年1月30日、前回の発生日-2006年11月、病因-口蹄疫ウイルス(血清型Asia1)、新たなアウトブレイク-Xinjiang, Xinheの村(アウトブレイクの開始日2007年1月23日): ウシにおいて疑い例25例、処分25例、ブタにおいて疑い例48例、処分48例、感染源-不明もしくは結論に到達していない。
26	口蹄疫	英国MHRA <a href="http://www.mhra.gov.uk/home/idcplg?dcService=SS_GET_PAGE&amp;useSecondary=true&amp;ssDocName=CON2032027&amp;ssTargetNodeId=387">http://www.mhra.gov.uk/home/idcplg?dcService=SS_GET_PAGE&amp;useSecondary=true&amp;ssDocName=CON2032027&amp;ssTargetNodeId=387</a>	英MHRAは、DEFRA (Department for Environment, Food and Rural Affairs)との詳細な協議により、口蹄疫のアウトブレイクへ対応するため実施される規制が、ウシ、ヒツジ、ブタ、ヤギおよびその他の偶蹄類(biungulates)由来物質を含有する医療機器の供給に及ぼす影響はごく小規模であることを確認した。2007年7月15日以降の英国産のウシ等の動物由来物質含有機器の輸出に関わる禁止事項のみが現在実施されており、これはImport and Export Restrictions (Foot and Mouth) Regulations 2007に記載されたその他の免除の影響を受けない。
27	デング熱	Am J Trop Med Hyg 2007; 76: 1182-1188	2004年8-10月に中国Ningboでデング熱のアウトブレイクが起こり、報告された83例中68例が確定された。2例からデングウイルスセロタイプ-1が分離された。アウトブレイクはタイから戻った旅行者に関係しており、遺伝系統学的分析によりNingbo分離株はタイ由来株に密接に相関していた。無症候性住民における特異的IgGの保有率が流行地域では対照地域に比べ有意に高かった。高密度のヒトスジマカの発生がウイルスの急速な拡散の原因であった。
28	サルモネラ	ProMED-mail20070409.1182	FDAは、カメはサルモネラの自然宿主であり、カメと接触すると、乳幼児、小さな子供および免疫系に障害のある大人に、時に重大な病気を起こすことがあると注意を喚起した。最近、フロリダで4週令の乳幼児がSalmonella pomonaに感染し死亡したが、同菌は飼っていたカメから検出された。サルモネラ菌はカメの皮膚や甲羅から検出されるので、カメに触れた後は手をよく洗うことが重要であると親や保育者に注意している。米国ではカメに関連したサルモネラ症は年に74000例と推定される。

ID	感染症(PID)	出典	概要
29	大腸菌感染	J Food Prot 2007; 70: 6-10	米国の5つの州の16の飼育場で24ヶ月間にわたり収集された直腸スワブ1686検体と環境検体576例について、大腸菌O157:H7の存在を分析した。肉牛の3.6%、乳牛の3.4%、ニワトリの0.9%、七面鳥の7.5%、ブタの8.9%の検体で同菌が検出された。生の餌の検体から同菌が分離されたことは、生の餌が伝播の潜在的なベクターであることを示す。また、同菌がブタおよび七面鳥飼育場で高い発生率であることが示された。
30	炭疽	The Australian 2007年2月19日	オーストラリア北Victoriaで炭疽の新規アウトブレイクが起こり、乳牛1頭が死亡した。群れの残りはワクチン接種された。また、34歳の作業員が家畜の死体の処分中に炭疽に感染した。一次産業局は家畜の突然の、原因不明の死亡についてチェックするよう呼びかけている。
31	ブドウ球菌感染	Ann Clin Microbiol Antimicrob 2006; 5(26): 1-4	オランダで養豚農家の家族3名、従業員3名および検査したブタ10頭中8頭がMRSA陽性であった。分離されたMRSAはMLST ST398であり、以前フランスのブタおよび養豚農家から分離されているものと同じ型であった。ヒトとブタ間のMRSA伝播が明らかになったが、地域的な問題が新規のMRSA源かを評価するための研究が必要である。
32	ブドウ球菌感染	Ned Tijdschr Geneeskd 2006; 150: 2442-2447	腎移植を受けた63歳の女性がメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)による心内膜炎で入院した。分離された菌は、最近オランダのブタから高い割合で分離されたMRSA株であるシークエンスタイプ398であった。この論文はブタMRSAによる重篤な感染についての最初の報告である。オランダ感染防止作業部会はこの株の拡大を防ぐため、リスク集団(養豚業者、食肉処理場従業員、獣医)が入院する場合にはMRSA保菌者でないことが確定するまでは隔離すべきであると、ガイドラインの修正を行った。
33	ブドウ球菌感染	PIG PROGRESS 2007年6月26日	オランダではブタの40%、養豚家の50%が家畜のMRSAのキャリアであり、市場で販売されている豚肉の20%、鶏肉の21%、牛肉の3%から家畜のMRSAが見つかった。イギリスでは、動物のMRSAはまだ家畜からも肉製品からも発見されていないので、ブタ、鶏、輸入肉の調査はおこなわれていない。オランダの科学者と当局は集約的な家畜の飼育で使用される抗生物質が、この動物のMRSAの出現、広がりの原因であると考えている。
34	ブドウ球菌感染	THE PIG SITE 2007年6月26日	オランダや他のヨーロッパ諸国で起きている動物のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)による深刻な人的健康被害が、イギリスにまで広がる可能性がある。現在、MRSAの新しい種がブタ、鶏と他の家畜に出現し、オランダにおいては、すでに農民や農場の労働者や彼らの家族に感染し、重大な健康影響を引き起こしている。この問題に関し、議会で質問に答えて、イギリスの責任大臣は懸念を退けたが、家畜の種類や動物の移動などを考えると、家畜のMRSAがオランダだけに存在しているとは考えづらく、すべてのEU加盟国が各国の家畜の調査をすることが重要である。
35	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2006; 12: 1203-1208	2005年7-8月に中国四川省で発生したStreptococcus suis serotype 2(SS2)感染のアウトブレイクについて調べた。99の分離株のうち97株がシークエンスタイプ7(ST-7)であった。ST-7分離株はST-1株に比べて末梢血単核球に対する毒性が強かった。
36	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070223.0668	米国の科学者は北アメリカで初めて報告されたStreptococcus suis髄膜炎のヒト感染例を確認した。健康であった59歳の男性農業従事者が髄膜炎で入院し、S. suis感染と判明した。S. suisはブタで重病を起こすグラム陽性球菌であり、ブタを扱う職業の人は注意が必要である。保健当局はヒトからヒトへの感染のおそれはないとしている。
37	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070517.1573 ProMED-mail20070527.1707	香港保健局の健康保護センターは、79歳の女性がブタ連鎖球菌に感染したことを確認した。女性は2007年5月7日に発熱し、2007年5月11日に入院したが、重病である。この患者に旅行歴はなく、家族は全く症状はなかった。この症例は、2007年における最初のブタ連鎖球菌感染報告例である。その後、食肉解体業者など2名がブタ連鎖球菌に感染した。その地域での全3つの症例は過去8日以内に診断されており、地元で感染したと思われる。
38	レンサ球菌感染	感染症学雑誌 2007; 81(Suppl): 324	40度の発熱にて近医を受診し、同夜、ジクロフェナクナトリウム座薬を使用した63歳女性が翌日、紫斑、発熱、起立困難、血圧低下、血小板減少、著明な代謝性アシドーシスを認め、その次の日死亡した。末梢血塗沫標本でグラム陽性双球菌およびその白血球貪食像が確認されたため、肺炎球菌による電撃型紫斑病が疑われた。血液培養検査の結果、Streptococcus suis(ブタ連鎖球菌)とPasturella multocidaが同定された。患者には家畜などによる咬傷歴は明確ではなく、患者家族などに同一菌による感染症は認めなかった。

ID	感染症(PT)	出典	概要
39	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070527.1707	2007年5月26日付けSouth China Morning Postによると、香港の肉販売業アルバイトの54歳男性がこの地域で1ヶ月以内で3人目のブタレンサ球菌犠牲者となった。中国本土では2005年アウトブレイク以降、報告例はない。香港では2006年に8例報告されている。
40	レンサ球菌感染	ProMED-mail20070726.2411	2007年7月25日、地方当局は中国南部のShenzhen市の49歳男性がブタレンサ球菌感染と診断されたと発表した。感染経路は不明であるが、当局は肉製品が疑わしいとしている。同市のブタでは病気は流行していない。2005年にはSichuan省では同伝染病で37人が死亡し、250人以上が感染した。
41	寄生虫感染	ProMED-mail20070212.0530	連邦の研究者は、メキシコの風土病である神経囊虫症(ブタ条虫に起因する脳感染症)が米国、特にメキシコと隣接する州において、大きな公衆衛生問題になっていると発表した。原因としては、国際旅行と移住(移民)が考えられる。1990-2002年の米国での囊虫症による死亡221名の60%近くがカリフォルニア住民であった。その大部分の患者(187人または85%)は外国生まれで、137人(62%)はメキシコからの移民だった。